

## Clinical Course and Outcome in Pediatric Idiopathic Chronic Anterior Uveitis

Carlyn V Kouwenberg, Roos A W Wennink, Mahfam Shahabi, Irem Bozkir, Viera Koopman-Kalinina Ayuso, Joke H de Boer

Am J Ophthalmol. 2022 Sep;241:198-205. doi: 10.1016/j.ajo.2022.04.015.

小児ぶどう膜炎は、日常診療において診察することは稀です。小児期に視力が低下してしまうことは、QOLを低下させる事になるため、適切な診断と治療が必須の疾患であります。若年性特発性関節炎関連ぶどう膜炎(JIA)と若年性特発性慢性虹彩毛様体炎(iCAU=JCI)は、小児ぶどう膜炎の中では比較的診察することのある疾患です。しかし、臨床像が類似しているため、診断に苦慮しますし、この2つの疾患は所見がオーバーラップしている事が多いため、同様の疾患群に属していると考えられています。これまで、この2つの疾患の臨床像を比較した報告は稀であります。JIAもJCIも患者数は多くないため、正確な結果を得るには、多施設での研究が最も重要であります。今回、多施設で研究を行った結果が報告されており興味深い結果でした。それは、iCAUでは虹彩後癒着を起こすものが多く、更に白内障手術を施行した患者、続発性緑内障に罹患する患者もiCAU患者に多いとの報告されております。さらに、JIAよりもiCAUの症例は、視力に障害を与える合併症が多く、JIAよりも若年のうちに罹患しているため、適切な時期に、適切な治療を開始することが必要とされているようです。(担当者：大阪大学 丸山 和一)